

【研究主題】 ICT×外国語の可能性

【副題】 ～自走する学びを求めて～

【所属校名】 彦根市立城南小学校

【職名・氏名】 教諭 田鍋 敏寿

＜主題設定の理由＞

GIGAスクール構想が始まって約3年経った。ICTを活用した授業がどの学級でも行われるようになったが、未だ教師主導であることが多い。そこで、本実践では外国語科の実践を通して、子どもたちがICTを活用することで学びの可能性を広げ、自走する学びを獲得する姿を求めていく。

＜内容と方法＞

今回取り組んだ実践は「おすすめの国を紹介するPR動画を作ろう！」と題して、グループごとに国を選び、それぞれの国で楽しめる観光名所や食、アクティビティなどを英語で紹介し、動画を作成する実践に取り組んだ。本実践ではブラウザで誰でも簡単に使える「Flip」(Microsoft社)と「Padlet」の2つのツールを効果的に使うことで自走する学びを実現した。

1つ目の「Flip」は、動画撮影、編集、投稿が簡単にでき、招待された子どもたちの中で自由に動画を共有できる。単元の初めには、授業で学習した表現を使ったコミュニケーション活動を撮影し、投稿するようにした。投稿したものを次の授業の始めに見ることで子どもの姿から全員でよりよい表現(言語面、非言語面)を考えることができた。グループで動画を企画する段階では、「いろいろな人に見てもらえるといいね！」と話し、相手意識を持たせることで、子どもたちは「どうしたら楽しみながらわかりやすく伝えられるかな？」などと考える姿が見られた。

動画を撮影・編集する段階では、うまくいくまで何度も何度も撮りなおすことで必然的に英語の発話量が増えた。他のグループが投稿した動画を見て、「もっといい動画を作りたい！」という学

びの連鎖が起こり始め、子どもたちの心に火がついた瞬間でもあった。

2つ目の「Padlet」は子どもの振り返りに活用した。これまでの振り返りは紙に書かせていたため、振り返りの交流が難しかったが、「Padlet」を活用することで、振り返りの相互交流が可能となった。振り返りが早く書けた子どもからお互いの学びの交流が始まった。また教師の見取りもその場でできるようになった。

単元の初めの方の振り返りでは「表現が言えた。」という技能面の内容が多かったが、学習が進むにつれて、「見ている人が楽しめるように」や「前回と比べて」など、相手意識や前時の自分との比較に関する内容を書く子どもが増えた。子どもの振り返りの視点も相互交流の中で多様になっていった。

＜成果と課題＞

本実践を通して、ICTを活用することで子ども同士が対面だけでなく、オンライン上でも学び合う姿が多く見られた。子どもたちが「よりよい動画を作ってたくさんの人に見てもらいたい！」という思いが学びを自走させたのではないかと考える。

ICTを活用することで、今までにはできなかったことができるようになり、子どもの学びの可能性が広がったのは本実践の大きな成果だと言える。今後の課題として、子どもたちによる相互評価を取り入れることで、より一層子どもたちは自走するのではないかと考える。